

# 健康ハイリスク者の見える化

## 「運輸ヘルスケアナビシステム」本格スタート

2017年11月、全日本トラック協会の受託事業である「運輸ヘルスケアナビシステム」の実証実験が終了しました。そして今年、いよいよ本格スタートの予定です。

「運輸ヘルスケアナビシステム」とは、全ト協の登録商標で、そのシステムはOCHISが開発を手掛けた。実証実験では全国のトラック事業者30社2179人の健診結果とSAS(睡眠時無呼吸症候群)検査結果を預かり、統一的な基準を設けたナビシステムに入力しました。これによりドライバーの健康結果に基づく健康状態が、おそらく日本で初めて浮上りました。

結果は大変インパクトがあり、対策を示唆するものでありました。それは全ト協への「実証実験報告書」を参照いただくとして、ここではあえてシステム入力に至るまでの取りまとめの状況について触れることに致しました。

## 安全運行に向け活用を

■健診結果票の不完全さに苦慮  
健診結果の個人票フォームが健診機関によってバラバラであること、むしろ想定内でありましたが、健診日や生年月日、性別の漏れをはじめ、医師判定さえ漏れているケースが多々あるなど、あまりにも「ずさん」な個人票が多いことにも驚かされました。この上、手書き文字が読めないなどというものは、むしろ日常茶飯事。したがってOCHISでは、入力に至るまでのこれらの確認業務に多くの時間と労を費やすこととなりま

■求められる専門的サポートとシステム化  
具体的には、保健師や看護師が事業者から預かった健診結果票の枚数を数え、内容チェックを行い、不備内容を事業者に問い合わせ、入力可能な状態に仕上げるというシステム化を踏んでいきます。もし、これと類似したことを専門職のいない中小事業者にできるかといえは、まず不可能だと思われま

幸い本年、全ト協の運輸ヘルスケアナビシステム事業が本格稼働の予定です。人材不足、ドライバーの高齢化など、何とかしなければと思いつつ具体的な施策に戸惑っておられるようなら、ぜひナビシステムを活用してください。

副理事長  
作本 貞子



NPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS)

テップを踏んでいきます。もし、これと類似したことを専門職のいない中小事業者にできるかといえは、まず不可能だと思われま

惜しまないOCHISが「ハイリスク者の見える化」とそのサポートを目指して、あくまでも全ト協の対策事業として推進するものです。OCHISはSAS検査及び運輸ヘルスケアナビシステムを通じて定期健康診断のフォローアップを通じて、本年も運輸事業者の安全と健康対策を全力でバックアップしてまいります。